

経営比較分析表（平成29年度決算）

兵庫県 西播磨水道企業団

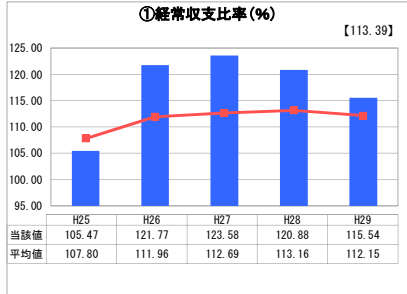
業務名	業種名	事業名	類似団体区分	管理者の情報
法適用	水道事業	末端給水事業	A4	自治体職員
資金不足比率 (%)	自己資本構成比率 (%)	普及率 (%)	1か月20m ³ 当たり家庭料金 (円)	
-	83.79	100.00	1,790	

人口 (人)	面積 (km ²)	人口密度 (人/km ²)
-	-	-
現在給水人口 (人)	給水区域面積 (km ²)	給水人口密度 (人/km ²)
52,524	41.03	1,280.14

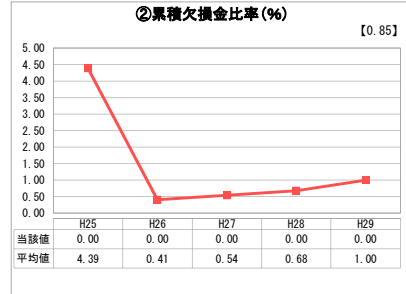
グラフ凡例

- 当該団体値 (当該値)
- 類似団体平均値 (平均値)
- 【】 平成29年度全国平均

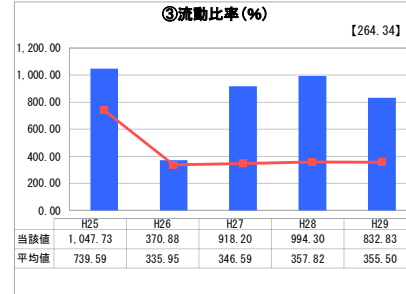
1. 経営の健全性・効率性



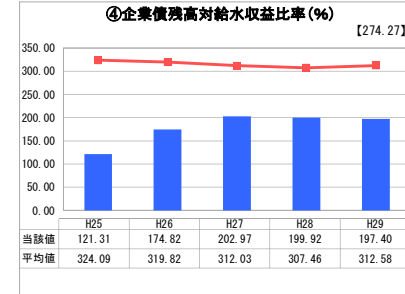
「経常損益」



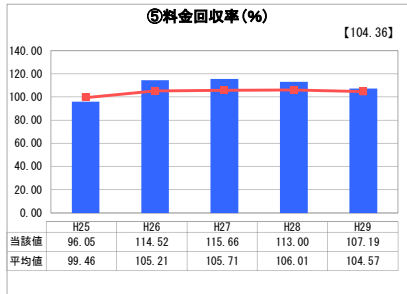
「累積欠損」



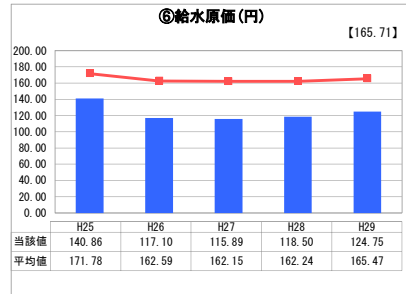
「支払能力」



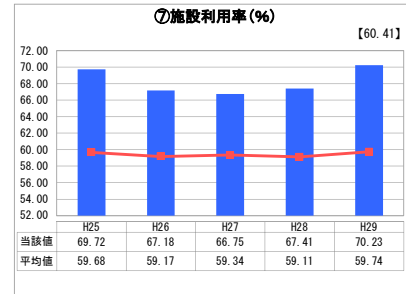
「債務残高」



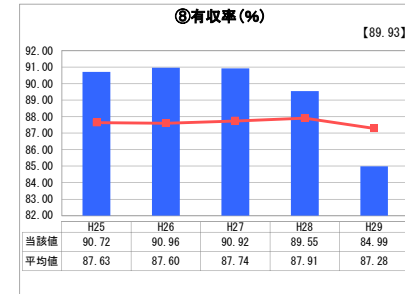
「料金水準の適切性」



「費用の効率性」

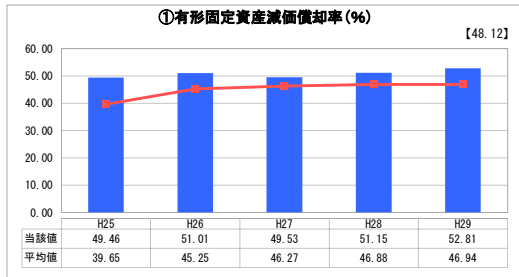


「施設の効率性」

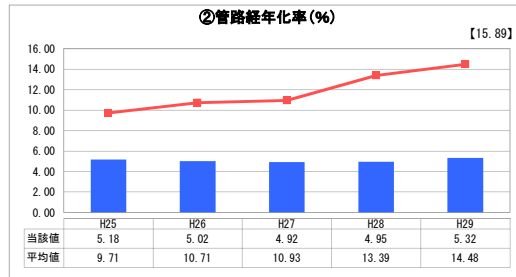


「供給した配水量の効率性」

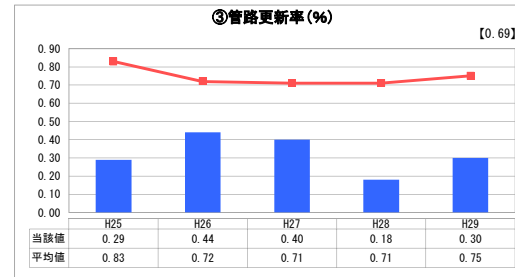
2. 老朽化の状況



「施設全体の減価償却の状況」



「管路の経年化の状況」



「管路の更新投資の実施状況」

分析欄

1. 経営の健全性・効率性について

- ① 経常収支比率は、退職給付費及び減価償却費の増で、経常費用が増加し、給水収益の減及び新設工事等の分担金収入の減により、経常収益が減少したため、低下した。依然として100%を超えており、経常利益が発生している状況ではあるが、給水収益は減少傾向にあり、施設等の更新に多額の費用が見込まれるため、費用の削減及び事業の更新財源の確保が必要である。
- ② 累積欠損金は、発生していない。
- ③ 流動比率は、100%を超えており、短期の債務に対する支払能力がある。
- ④ 企業債残高対給水収益比率は、類似団体の平均値と比較して低く、企業債残高が低く抑えられている状況である。
- ⑤ 料金回収率は、100%を超えているが、給水収益は減少傾向にあり費用の削減が必要である。
- ⑥ 給水原価は、有収水量の減、退職給付費及び減価償却費の増により、やや増加している。
- ⑦ 施設利用率の増加は、平成28年度末をもってつの市からの受水を廃止したため、自己水源の送水量が増加したことが主な理由である。
- ⑧ 有収率は、配水量は増加したが、有収水量が減少したため、減少している。

2. 老朽化の状況について

- ① 有形固定資産減価償却率は、類似団体と比較してやや高くなっているが、これは、施設整備を、高度経済成長期に行った結果、これらの施設の老朽化が進み、更新の必要があることを示している。
- ② 管路経年化率は、類似団体と比較して低いが、これは、下水道布設工事に合わせて管路の更新工事を行っており、管路は新しいことを示している。
- ③ 管路更新率が低くなっているのは、下水道布設工事に合わせて更新事業に積極的に取り組み、管路の更新が進んだ結果である。

全体総括

当企業団の経営状況は、類似団体の平均値と比較して、やや良好な状況となっているが、老朽化した施設の更新及び耐震化が課題となっている。人口減少により給水収益が減少していく中で、有収率を維持し、安心して安全な水の安定供給を継続していくため、平成29年度に策定した経営戦略により、重要度と優先度を踏まえ、今後も計画的に更新事業を実施し、健全経営に努める。

※ 平成25年度における各指標の類似団体平均値は、当時の事業数を基に算出していますが、管路経年化率及び管路更新率については、平成26年度の事業数を基に類似団体平均値を算出しています。